

(近藤亨・受賞スピーチ)

ただいま「安吾賞新潟市特別賞」を市長からいただきまして感激に胸が震える思いでございます。87歳にしてこのような輝かしい賞をいただけるとは、何と幸せなおじいちゃんだろうと目が潤む思いです。皆さん方、どうもありがとうございます。

私は87歳ですが、これから私の人生の始まりなのです。87歳のおじいちゃんが陣頭に立ってムスタンの新しい農業開発に全力を注いで、おそらく向こうで華々しい人生を閉じるのではないかと思います。これこそが命がけでやる本当の国際協力であると思います。

私は富士山より高い所に、世界でだれも果たし得ない所に、見事に新潟のコシヒカリを作りました。ネパールでも一番おいしいりんごを、標高 3,600 から 4,000 メートルくらいの所に作り、これがいずれは秘境ムスタンの村人たちの農業開発の命綱として普及するのではないかと思います。

それだけではございません。私の専門外ですが、皆さん方の援助によって 200 ヘクタールの大牧草地も作りました。ムスタンの村人たちは、11月初めから春まで出稼ぎに出ていたけれども、若い農業者たちが出稼ぎをやめて、少しずつ私に弟子入りして、地元で本腰を入れて農業開発に取り組み始め、りんごを植え、牧草地を作って、乳牛、山羊、綿羊をどんどん飼い始めています。

まさに秘境ムスタンの夜明けです。皆さん、ヨーロッパやアメリカへ旅行するのをやめなさい。それよりも、このじいさまの元気な第一線の現場をご覧になって、農業をしない人たちも、新しい人生の目覚め、人生いかに生きるべきかということ、秘境ムスタンにおいて近藤の現在のボランティア活動を通じて感じてほしいと思います。

私は決してムスタンだけを考えているのではないのです。祖国日本がこの頃あらゆる面でしょぼくしており、人倫道徳はどうしたのだろうと思うくらいの現状になっているのが悲しくて仕がありません。ネパールよりよほど日本が、新潟が心配なのです。あまりじいちゃんに心配させないように、これから本腰を入れて郷土の振興のためにご活躍願いたいと思います。